四国北部の臨海沖積低地の更新統および完新統の層序と対比

Stratigraphy and correlation of the subsurface geology in the coastal alluvial plains, the northern Shikoku Island

川村 教一 [1]
Norihito Kawamura[1]

[1] 丸亀高
[1] none

演者は，これまでに四国北部の主要臨海沖積低地の地下地質層序を研究し，火山灰層の広域対比結果および炭素 14 年代値の測定値をもとに，地層の堆積年代を推定してきた．これらの結果をレビューし，各低地地下地質の対比を検討する．

各低地の地下地質層序と堆積環境，形成年代の概要は以下の通りである．

愛媛県中部の松山平野の地下地質は，更新統重信川層，完新統松山層に区分される．平野西部において，重信川層上部は 29〜26ka 頃に重信川の氾濫原堆積物として形成された．松山層上部は 7.3〜5.8ka 頃に，下部は 5.8ka 頃以降にいずれも三角州堆積物などとして形成された．

愛媛県東部の西条・周桑平野では，更新統周桑層と完新統壬生川層に区分される．周桑層上部は 29〜26ka 頃に湿地もしくは氾濫原堆積物として，壬生川層は 7.3ka 頃以降に三角州堆積物として形成された．

香川県中部の坂出低地では，更新統坂出層，完新統綾川層に区分される．坂出層上部は，25ka 頃の湿地堆積物や氾濫堆積物からなる．綾川層は K-Ah 降灰以前に汽水環境下で堆積が始まり，7.3 以降 5.5ka 頃までに三角州堆積物として形成された．

香川県中部の高松低地では，更新統の上部香東川層と上部更新統〜完新統高松層に区分される．上部香東川層は，湿地堆積物や香東川の氾濫堆積物などからなる．高松層は，まず春日川の三角州が 6ka 頃から，その後古香東川の三角州が 4ka〜3.6ka 頃に形成された．

徳島県北部の徳島平野では，更新統北島層と上部更新統〜完新統徳島層に区分される．徳島層最下部は 12ka 頃に，下部は 11〜7.8ka ごろに堆積し，その後，吉野川の三角州堆積物として，徳島層中部は 7.8〜3ka，上部は 3〜1.6ka に形成された．

各層の形成年代をもとに，徳島層と，松山層，壬生川層，綾川層，高松層が対比できる．沖積層の形成年代や岩相の特徴には地域性が見られる．